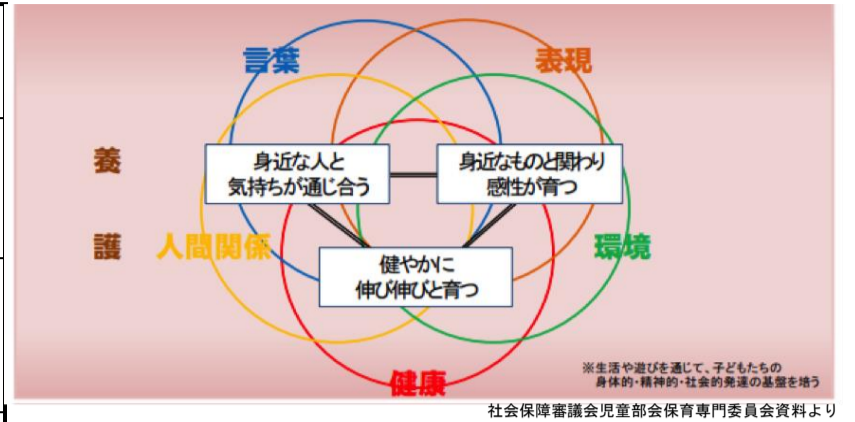


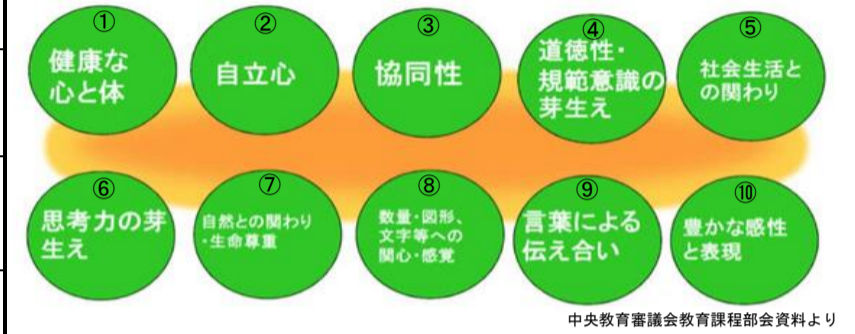
こども園の役割		<ul style="list-style-type: none"> 子どもの最善の利益を考慮、その福祉を積極的に増進することに最もふさわしい生活の場 子どもの状況や発達過程を踏まえ、こども園における環境を通して、養護及び教育を一体的に行う。 地域における子育て支援を行う。 倫理観に裏付けられた専門的知識、記述、判断が必要。専門性の向上に努める。 				保育理念 (事業運営方針)		<ul style="list-style-type: none"> 1.清く、正しく、情け深い人格の形成を目指します。 2.愛と夢と情熱を持って、子どもの成長に関わらせて頂き、これからの日本を、そして世界を背負ってつづいて育てます。 3.社会に貢献できる園、そして人となります。 										
教育・保育方針		耐える心と乗り越える力を培う教育・保育を目標に心身共に健康で心豊かな園児の育成を目指します				園の教育・保育目標		<ul style="list-style-type: none"> 1.挨拶のしっかりできる子ども 2.人の話をしっかり聞ける子ども 3.元気になかよく遊べる子ども 4.根気強くやり通せる子ども 										
社会的責任		人権尊重		○児童福祉施設は、入所している者の人権に十分配慮するとともに、一人一人の人格を尊重して、その運営を行わなければならない。(児童福祉施設の設備及び運営に関する基準第5条第1項)														
		説明責任		○児童福祉施設は、地域社会との交流及び連携を図り、児童の保護者及び地域社会に対し、当該児童福祉施設の運営の内容を適切に説明するよう努めなければならない。(児童福祉施設の設備及び運営に関する基準第5条第2項)														
		情報保護		○児童福祉施設の職員は、正当な理由がなく、その業務上知り得た利用者又はその家族の秘密を漏らしてはならない。(児童福祉施設の設備及び運営に関する基準第14条の2第1項)														
		苦情処理 解決		○児童福祉施設は、その行った援助に関する入所している者又はその保護者等からの苦情に迅速かつ適切に対応するために、苦情を受け付けるための窓口を設置する等の必要な措置を講じなければならない。(児童福祉施設の設備及び運営に関する基準第14条の3第1項)														
子どもの教育及び保育目標 (学年の重点)		乳児		3歳児		保育時間など		1号認定/基本保育時間 8:30～14:30(一時預かり14:30～16:30) そのほかの一時預かり 7:00～8:30&16:30～18:00 2.3号認定/基本保育時間 標準認定7:00～18:00 短時間認定8:30～16:30 延長保育時間 標準認定 18:00～19:00 短時間認定7:00～8:30 16:30～19:00										
		1歳児		4歳児				主な園行事(日常の節目としての行事設定) 及び園事業		入園式・誕生会・お泊まり会・世代間交流会・親子運動会・お遊戯会・お餅つき会 お別れ会・卒園式・豆まき・ひな祭り・園外指導・収穫体験・体育指導・小学校交流会 地域の行事に参加								
		2歳児		5歳児														
教育及び保育の基本と目標		<ul style="list-style-type: none"> ①活動体験を十分に積み重ねる ②養護による自己発揮を考慮し、乳幼児期にふさわしい生活の展開 ③遊びを通じた指導を中心として5領域のねらいを達成 ④園児一人ひとりの発達の課題に即した指導→カリキュラム・マネジメントの徹底/認知法第9条の目標達成に努める 																
発達過程	おおむね生後57日から4か月		おおむね4か月から6か月未満		おおむね6か月から1歳3か月未満		おおむね1歳3か月から2歳未満		おおむね2歳		おおむね3歳		おおむね4歳		おおむね5歳		おおむね6歳	
	<ul style="list-style-type: none"> ・視覚や聴覚などの感覚器官が自覚ましく発達し、大人の表情や動きに顔を向ける、声を出して応じるようになる。 ・空腹などの生理的欲求を伝えて訴える。 ・身長、体重の増加が大きい。 		<ul style="list-style-type: none"> ・首が座り始める。 ・身体的、運動面、視覚、聴覚などの感覚の著しい発達が見られる。 		<ul style="list-style-type: none"> ・運動機能が発達すること、腕や指先を意図的に動かせるようになることにより、人や物に興味を示し、探索活動が活発になる。 ・特定の大人との愛着関係が更に深まる一方で、人見知りをするようになる。自分の意志や要求を身振りなどで伝えようとし、大人からの簡単な言葉が分かるようになる。 ・食事は離乳食から幼児食へ徐々に移行する。 		<ul style="list-style-type: none"> ・歩き始め、手を使い、言葉を話すようになることにより、身の回りの人や物に自発的に働きかけていく。 ・運動機能の発達や新しい行動の獲得により、環境に働きかける意欲が一層高まり、物をやり取りしたり、取り合ったりする姿が見られることにより、象徴機能が発達し、人や物との関わりが強まる。 ・大人の言うことが分かるようになり、自分の意志を親しい大人に伝えたいという欲求が高まる。二語文を話し始める。 		<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な運動機能や指先の機能が発達し、身の回りのことを自分でしようと、身体機能も整ってくる。(排泄の自立) ・発音が明確になり、語彙も著しく増加し、自分の意志や欲求を言葉で表せるようになる。 ・行動範囲が広がり、探索活動が盛んになる中、自我が育ちの表れとして、強く自己主張する姿が見られる。 ・盛んに模倣し、物事間の共通性を見出すことができ、象徴機能の発達により、大人と一緒に簡単なごっこ遊びを楽しめる。 		<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な運動機能が伸び、それに伴い、身の回りのことはほぼ自立する。 ・話し言葉の基礎ができ、知的興味や関心が高まる。 ・自我がよりはっきりしてきて、友達との関わりが多くなるが、平行遊びであることが多い。 ・経験したことをごっこ遊びに取り入れたり、象徴機能や観察力を発達し、遊びの内容に発展性が見られるようになる。 ・予想や意図、期待を持って行動できるようになる。 		<ul style="list-style-type: none"> ・全身のバランスを取る能力が発達し、体の動きが巧みになる。 ・身近な環境に積極的に関わり、物の特性を知り、それらの関わり方や遊び方を体得していく。 ・想像力が豊かになり、目的を持って行動していくが、自分の行動やその結果を予測し不安になるなどの葛藤も経験する。 ・感情が豊かになり、人の気持ちを察し、自分の気持ちを抑えられたり、我慢ができるようになってくる。 		<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な生活習慣が身に付き、運動機能は伸び、仲間とともに活発に遊ぶ。 ・言葉によって共通のイメージを持つことにより、目的に向かって集団で行動することが増える。 ・自分なりに考えて、批判する力が生まれ、社会生活に必要な基本的な力を身に付けていく。 ・他人の役に立つことをうれしく感じたりして、仲間の中の一人としての自覚が生まれる。 		<ul style="list-style-type: none"> ・全身運動が滑らかで巧みになり、快活に飛び回るようになる。 ・予測や見通しを立てる力が育ち、心身共に力があふれ、意欲が旺盛になる。 ・役割の分担が生まれるような協同遊びやごっこ遊びを行い、満足するまでやり取りも行う。 ・思考力や認識力も高まり、自然現象や社会現象、文字などへの興味や関心も深まっていく。 	
	<ul style="list-style-type: none"> ・外界への急激な環境の変化に適切に反応できるように全身の状態を把握する。 ・生理的欲求を満たしてもらい、気持ちよく過ごす。 ・大人の応答的な対応により、様々な行動や欲求を存分に表現する。 		<ul style="list-style-type: none"> ・家庭との連絡を密に取り、健康状態を把握し、安心できる環境の中で生活リズムを整う。 ・特定の保育教諭の応答的な動きかけにより、情緒的絆を形成する。 		<ul style="list-style-type: none"> ・健康状態や発達を把握してもらい、家庭と協力しながら適切な生活のリズムを作る。 ・特定の保育教諭による、応答的な関わりにより、自発性、探索意欲が高まる。 		<ul style="list-style-type: none"> ・心身の発達や発達を的確に把握し、快適な生活や生理的欲求が満たされる。 ・信頼関係を築いた、大人との応答的な関わりによって、「自分で」という欲求を満たす。 		<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な生活習慣の習得を適切に援助してもらい、自分でやろうとする意欲が育つ。 ・一人ひとりの自我を受け止めてもらい、子どもを主体とする保育の中で、自己肯定感を育む。 		<ul style="list-style-type: none"> ・適度な運動と休息のとれるよう、生理的欲求を満たし、基本的な生活習慣を形成する。 ・一人ひとりの気持ちを、信頼できる大人に受け止めてもらい、自分の気持ちを安心して表現する。 		<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な生活習慣を身に付け、信頼できる大人との関わりにより健康や安全の大切さに気付く。 ・他者との違いに気付いたことによる不安や葛藤する気持ちを信頼できる大人に受け止めてもらい、共感してもらい、他人の心や立場を気遣う感受性を育む。 		<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な生活習慣を身に付け、健康に過ごすことや安全に必要な習慣・態度を知り、体調の変化に気づけるようになる。 ・信頼できる大人との愛着形成の積み重ねにより、自分への自信を持ち、一人ひとりの子どもが主体的に活動する。 			
	健康		<ul style="list-style-type: none"> ・静かな環境で、特定の保育教諭にゆったりと授乳をしてもらい、空腹感が満たされる経験を重ねる。 ・安心できる環境の下で、生理的欲求に適切に関わり、心地よく過ごす。 		<ul style="list-style-type: none"> ・安心できる環境の中で、寝返り、腹ばいなどを体験し、身体感覚が育つ。 ・こども園と家庭との連携により、遊び、睡眠、授乳などのリズムを整え、心地よく生活する。 		<ul style="list-style-type: none"> ・安心できる環境の中で、信頼関係を築いた大人との応答的な関わりの下、這う、立つ、歩くなどの経験を、身体感覚が育つ。 ・こども園と家庭との連携により、心地よく過ごす経験を重ね、整った生活のリズムの感覚が芽生えていく。 		<ul style="list-style-type: none"> ・自発的な行動を見守ってもらえる大人の下、自分から体を動かし、伸び伸びと生活する。 ・自分でやりたい気持ちを十分に尊重してもらい、食事・排泄・睡眠・衣類の着脱等を自分でしようとする。 		<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な運動機能や指先の機能が発達し、身体的機能が整い、身の回りのことを自分でしようとする。 ・身体を動かしたいという身体的欲求が十分に満たされる環境の下、自分から進んで運動しようとする。 		<ul style="list-style-type: none"> ・全身のバランスを取る能力が発達し、遊びが充実していく中で、危険な場所や遊び方を知る。 ・基本的な生活習慣を確立し、自分たちで生活の場を整えながら、見通しを持って行動しようとする。 		<ul style="list-style-type: none"> ・健康で安全な生活に必要な心がわり、自主性や自立心を一層高めて行動する。①②④⑤⑥ 			
	人間関係		<ul style="list-style-type: none"> ・生理的欲求に対し、丁寧に応答的に関わってもらおうとして、「人は良いものだ」と感じている。 ・自分にとって心地よい「大切な人」との間に親密な関係を結び、安心して生活する。 		<ul style="list-style-type: none"> ・周囲の大人から愛されている経験を通じ、自分を肯定する気持ちが芽生える。 		<ul style="list-style-type: none"> ・特定の保育教諭との深い愛着関係の下、安心して遊び、周囲の友達への関心を高めていく。 		<ul style="list-style-type: none"> ・大人に自我の育ちを受け止めてもらい、安心して自己主張する中で、人との関わり方を知る。 		<ul style="list-style-type: none"> ・保育教諭との信頼関係の下、生活や並行遊びを通して、友達や周りの人との関わりが深まり、決まりがあることに気付き、社会性が芽生える。 		<ul style="list-style-type: none"> ・仲間との繋がりが深まると共に、葛藤を経験し、保育教諭の仲立ちの下、友達と関わりを深め、工夫したり、協力したりして一緒に活動する楽しさを味わう。 		<ul style="list-style-type: none"> ・目的を持った集団行動を通して、保育教諭の適切な援助の下、自分達で活動や遊びの決まりを作ろうとする。また、仲間一人一人としての自覚が生まれる。 		<ul style="list-style-type: none"> ・仲間の一員として認められ、遊びの楽しさを共有する中で、自主と協調の姿勢や態度を身に付けていく。また、身近な社会に興味を持つ。②③④⑤⑥⑨ 	
	言葉		<ul style="list-style-type: none"> ・泣いたり、笑ったり、しぐさなどで、周りに人へ働きかけようとする。 ・信頼関係を築いた大人に対して、喃語などで働きかけようとする。 		<ul style="list-style-type: none"> ・安心できる大人との関係の中で簡単なやり取りができる。 		<ul style="list-style-type: none"> ・遊びの中で、保育教諭を仲立ちとして友達や言葉のやり取りを楽しむ。 ・伝えたい気持ちを大切にされる中で、話すことが楽しく感じられるようになる。 		<ul style="list-style-type: none"> ・保育教諭の適切な援助の下、遊びや生活の中で、言葉を使う楽しさの体験を重ねていき、語彙数が増え、聞いたり、考えたことを言葉で表現する。 		<ul style="list-style-type: none"> ・保育教諭の適切な言葉掛けの下、経験したことを話したり、友達の話の聞いたり言ったり、言葉を使おうとする。 		<ul style="list-style-type: none"> ・大人の話や絵本などから話を聞いたり、新しい言葉や言葉を覚える。また、言葉を使って問題を解決しようとする。②③④⑤⑥⑧⑨⑩ 		<ul style="list-style-type: none"> ・言葉によって自分の気持ちを伝えたり、相手の話を聞くことで、言葉によって人と気持ちを通じ合う喜びを知る。また、言葉を使って問題を解決しようとする。 			
表現		<ul style="list-style-type: none"> ・特定の保育教諭との愛着関係の下、生活や遊びの中で、様々なものに興味を示し口に入れたり、触れたりして確かめる。 ・様々な感覚が刺激される環境(明るい・暗い・冷たい・温かい・柔らかい・硬い等)の中で、身近なものに興味・関心を持つ。 		<ul style="list-style-type: none"> ・保育教諭が応答的に関わる中で一緒に歌ったり、体を動かすなどの意欲が高まる。 		<ul style="list-style-type: none"> ・自分の感じたことを共感してくれる大人の下、自分なりの表現しようとする。 		<ul style="list-style-type: none"> ・様々な体験ができる豊かな日常の中で、イメージや感性を育む。 		<ul style="list-style-type: none"> ・感性が刺激されるような豊かな環境の下、自分で考えたり、感じたものを表現しようとする。 		<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの表現を受け止めてもらえる保育教諭の下、自分が感じたことを自分なりにあらわそうとする。また、表現することを楽しみ、好きになる。 		<ul style="list-style-type: none"> ・様々なものを見たり、聞いたり体験することを積み重ねることで、想像力や豊かな表現力が育つ。 ⑥⑦⑧⑩ 				
環境		<ul style="list-style-type: none"> ・陽の光や自然の風などを感じる環境の下、様々な感覚が刺激される。 ・様々な感覚が刺激される環境(明るい・暗い・冷たい・温かい・柔らかい・硬い等)の中で、身近なものに興味・関心を持つ。 		<ul style="list-style-type: none"> ・見守られているという安心感に支えられ、発達に適した環境の下、探索活動が活発になる。 		<ul style="list-style-type: none"> ・生き物や植物など身の回りのものに関わる中で色々なものに興味関心を持つようになる。 		<ul style="list-style-type: none"> ・自然の中でたくさん遊び、生き物や植物に興味関心を持つ。 		<ul style="list-style-type: none"> ・5感をたっぶり使った遊びを通して、様々なものの性質や仕組みに気付く。 ・文字や数、形に興味を持ち数えたり比べたりする。 		<ul style="list-style-type: none"> ・身近な自然、事象への関わりが高まり、自分なりに試したり、自分の生活に取り入れていく。 ・数や形への理解が深まり、並べたり組み合わせたりして遊ぶ。 		<ul style="list-style-type: none"> ・身近な自然、事象への関わり、好奇心や探求心を持って物事について考えたり、試したり、友達と話し合ったりする。 ・遊びや生活の中に文字、数字、形を取り入れようとする。③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩ 				
食を営む力の 食育		<ul style="list-style-type: none"> ・空腹を感じる生活リズムを整える。 ・安心と安らぎの中で飲んでいる(食べている)心地よさを味わう。 		<ul style="list-style-type: none"> ・特定の保育教諭からの温かい援助の中で少しずつ食品の量や種類を増やす。 ・味覚、視覚、触覚が刺激され、食べ物への興味、食べようとする意欲が高まっていく。 		<ul style="list-style-type: none"> ・家庭との連携により、空腹感を感じるリズムが整い、食事がおいしく楽しいものだと感じる。 ・いろいろな食べ物に興味を持ち、自分で意欲的に食べようとする。 		<ul style="list-style-type: none"> ・いろいろな食べ物に興味を持ち、保育教諭に助けを借りながら食卓を囲って自分で食べようとする。 		<ul style="list-style-type: none"> ・栽培、収穫、調理を通して自分たちで作ったものをおいしく食べる。 ・友達や保育教諭と一緒に食べる楽しさを感じる。 		<ul style="list-style-type: none"> ・給食やおやつの手伝いを通して、食べ物に興味を持ち、食材や調理してくれる人への感謝の気持ちが育つ。 ・保育教諭や友達と食事をする中で、食事のマナーに気付く。 		<ul style="list-style-type: none"> ・食べ物と身体の関係に関心を持ち、食の大切さを知る。 ・食事のマナーが身に付き、保育教諭や友達と楽しく食事する。 		<ul style="list-style-type: none"> ・自分の身体に必要な食品の働きに気付く。バランスの取れた食事を取ろうとする。 		

※五領域のおおむね6歳の欄に記載された数字は『幼児期の終わりまでに育ってほしい姿』の10の項目と関連しています。

食育の推進	<ul style="list-style-type: none"> ○『保育所における食育の提供ガイドライン』『第三次食育推進基本計画』を踏まえて、食育計画を作成する。 ○授乳・離乳期においては、『授乳・離乳の支援ガイド』を参照とし、食を営む力の基礎を養う。 ○食物アレルギーを持つ子どもについては、『保育所におけるアレルギー対応ガイドライン』を参照し、適切な対応を全職員が行えるようにする。 ○食事の大切さを心得、栄養素を知り、命と食に関心を育てるようにする。 ○食事と栄養のバランスを整える。
健康支援	<ul style="list-style-type: none"> ○子どもの健康に関する保健計画を作成し健康の保持及び増進に努める。 ○保育所における感染症対策ガイドラインに基づいた環境設定及び衛生管理を行い、感染症への罹患、感染症の流行防止に努める。 ○健康・発育及び発達状態を把握する。 ○内科検診、歯科検診を実施する。 ○心身状態や家庭環境、養育状態の把握に努め、虐待が疑われる場合には保育サポート課に通告を行う。 ○各種アレルギーに対応できるよう、『保育所におけるアレルギー対応ガイドライン』を全職員が理解する。
環境・衛生管理・安全管理	<ul style="list-style-type: none"> ○事故発生防止や事故発生時の対応のため、『教育・保育施設等における事故防止及び事故発生時対応のためのガイドライン』に基づいて指針を整備する。 ○給食配膳に係る全職員の検便検査を実施する。 ○事故や怪我が発生した場合は保育サポート課に連絡の上、月次報告にて報告を行う。事故発生時対応フローチャートの周知。 ○施設内外の設備、用具等の清掃及び消毒による衛生管理に努める。安全管理マニュアルの周知徹底。(安全管理及び自主点検) ○保健所立入検査 ○厨房衛生点検、水質検査
災害への備え	<ul style="list-style-type: none"> ○災害発生時の対応体制及び、避難への備えを明記した指針を作成する。なお、指針作成の際には『和光市防災ガイド&ハザードマップ』を参照とする。 ○防災訓練(引き渡し引き取り訓練、園外避難所への訓練)の実施を行う。 ○毎月、避難訓練(火災・地震・防犯)を実施する。 ○消防設備点検及び報告
家庭との連携	<ul style="list-style-type: none"> ○園児の生活全体を豊かにするために家庭との連携を密に図る。 ○家庭調査書等による、状況把握に努める。 ○入園のしおり、HP等により園の情報を提供する。 ○教育及び保育の全体的な計画や園便り、あしあとの掲示等により、保育の説明を丁寧に行う。
子育て支援・地域との連携	<ul style="list-style-type: none"> ○幼保連携型認定こども園教育・保育要領に基づき、保護者に対する支援を行う際には相互の信頼関係を基本として、保護者の自己決定を尊重する。 ○保護者への支援として保育体験事業を実施する。 ○地域の保護者への支援として、こども園見学の受け入れ、遊ぼう会等を実施する。 ○実習生の受け入れを行う。 ○和光市で行われるお祭り等に参加する。
地域包括ケアシステム	<ul style="list-style-type: none"> ○園内ケア会議を実施し、子ども及び世帯の課題を解決する。 ○コミュニティケア会議に出席し、多制度・多職種による支援により課題解決・自立支援を図る。(地域包括ケア課、子育て世代包括支援センター等との連携) ○事業者連絡会へ出席する。
小学校との連携 2歳児から3歳児への移行の連携	<ul style="list-style-type: none"> ○幼保小連絡協議会に参加する。 ○小学校生活へスムーズに移行できるよう、アプローチカリキュラムを作成し、円滑な接続を図る。 ○幼保連携型認定こども園園児指導要録を作成・送付し、小学校と円滑な情報共有を図る。 ○幼保小中一貫教育に鑑み、児童等との交流、教師の意見交換や合同研究の機会を図る。 ○合理的配慮が必要な子どもについては就学支援委員会に承継し、情報共有と連携を図る。 ○駅前保育園・小規模保育事業所からの転園(本園から転園)の際には、転園児童保育要領を受領(作成)し、転園元(先)と協力し合い、情報共有を図る。
多様な在園児への配慮	<ul style="list-style-type: none"> ○一日の生活リズムや在園時間が異なることへの配慮を行う。 ○午睡については子どもの発達や個人によって差があるため、一律とならないようにする。 ○障害児保育を実施する。 ○外国籍家庭など特別な配慮を必要とする家庭の場合、個別支援を行う。 ○合理的配慮が必要な子どもについては、的確なアセスメントを行い、個別指導計画を作成し適切な支援を行う。
職員の資質向上	<ul style="list-style-type: none"> ○園内研修を実施する。 ○子ども子育て支援事業所従事者研修、連続研修等と和光市が主催する研修の他、埼玉県保育協議会・日保協・ほよ会等に参加する。
情報公開等	<ul style="list-style-type: none"> ○適切な施設運営 ○人権尊重 ○地域交流(行事への呼びかけ参加、小中学校との交流) ○教育・保育の説明責任(HP作成、保護者の教育・保育参加、おたよりの配布) ○苦情処理解決(第三者委員設置) ○情報提供
特色のある教育と保育	<ul style="list-style-type: none"> ○絵本の読み聞かせ ○派遣講師による体育指導・リズム ○小学校との交流事業 ○カード ○朝鑑賞 ○学びワークを使った知育指導



幼児期の終わりまでに育ってほしい姿



幼児教育において育みたい資質・能力の整理

